

2016 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日
2016 年 10 月 26 日（水）～28 日（金）
2. 会 場
名古屋大学東山キャンパス
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
<http://www.nagoya-u.ac.jp/>
3. 研究発表
口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程
大会は以下の日程で行われる予定です。
第 1 日（10 月 26 日）
午前：口頭
午後：口頭，ポスター
第 2 日（10 月 27 日）
午前：口頭
午後：授賞式，受賞記念講演，シンポジウム，懇親会
5. シンポジウム
大会第 2 日（10 月 27 日）の午後に開催予定です。テーマは「航空機が気象学にもたらす科学イノベーション」です。
6. 懇親会
大会第 2 日（10 月 27 日）の夕刻に，大会会場（豊田講堂 1 階アトリウム）にて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2016 年 6 月 7 日（火）開設予定】
本大会では，大会ウェブサイトを，2016 年 6 月 7 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては，こちらをご参照下さい。URL 等につきましては，気象学会ホームページ（<http://www.metsoc.jp/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法
「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や，クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など，止むを得ない事情がある場合は，郵送による申込を受け付けます。
なお，大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。
- 1.1 オンラインによる申込
 - ・締切：2016 年 7 月 5 日（火）15 時（日本時間）
 - ・大会ウェブサイトを参照し，指示に従って申し込みをして下さい。
 - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが，改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし，大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(7月5日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2016年6月28日(火)(消印有効)
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿(電子メールの場合はPDF形式)
 - ② 講演者氏名(漢字、ふりがな、ローマ字)、所属、所属略称、会員番号、発表形式、連絡

先(住所・電話番号・E-mail アドレス)、講演題目、主・副キーワード、参加種別(講演者A/講演者B)、懇親会(参加/不参加)、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)

③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項参照)

④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書(フォーマットは以下に掲載)

http://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf

送付先(電子メールの場合):

kouenkikaku2016a@mri-jma.go.jp

(件名に「講演申込2016a」と明記して下さい。)

送付先(郵送の場合):

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。

一口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

—「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

①「2016年度秋季大会参加申込」と明記

②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)

③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)

④大会参加費金額

⑤懇親会費金額

⑥合計金額

—「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

—払込料金は本人負担をお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2016a@mri-jma.go.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい

い。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2016年8月23日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

・2016年8月16日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」,

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

①「2016年度秋季大会参加申込」と明記

②大会参加種別（聴講者）

③大会参加費金額

④懇親会費金額

⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

・大会参加費（食事代等は含まれません、消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	2,500 円	3,000 円

・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。

・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

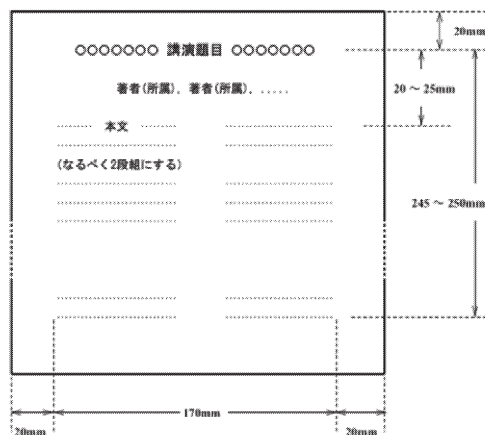
4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組

（左半分→右半分）にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

昨今の発表件数の増加、スペシャル・セッション数の増加により、プログラムの編成が複雑化しています。このため、2 件の口頭発表を申し込まれた場合、希望通りのセッションに組み込むことが出来ない場合があることをご了承ください。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承ください。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は7月5日（火）、郵送申込は6月28日（火））です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。
- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、縦160 cm×横110 cmとします。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。

- ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
- ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
- ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

1. 「衛星観測データの新しい解析手法による雲・降水過程の理解深化と数値モデル検証」

趣旨：近年の衛星観測では複数のプラットフォームやセンサーによって雲降水システムの様々な物理量が同時に得られるようになり、衛星観測は従来の物理量の推定から、物理量を組み合わせて素過程を診断できる新しい時代に入ったと言える。特

に今年も、雲の鉛直内部構造を観測する CALIPSO/CloudSat 衛星が運用 10 周年を迎えるほか、降雨の三次元構造をとらえる GPM 主衛星の打ち上げからは 2 年、高時間分解能での計測を可能としたひまわり 8 号の運用開始からは 1 年が経つ歴史的な節目の年でもある。本セッションでは、このように拡充しつつある衛星観測データを縦横に活用して雲・降水過程を調べる新しい解析研究と、それを用いた数値モデルのプロセス検証に関する研究発表を広く募集する。これにより、異なる衛星ミッションにまたがるコミュニティ間の情報交換を図り、雲・降水過程の理解を進めるための衛星観測とモデリングの連携を促進したい。

世話人: 鈴木健太郎 (東大気海洋研), 増永浩彦 (名大宇宙地球研), 端野典平 (九大応力研)

2. 「気候形成の統合的理解—気候科学における基礎研究の推進と地学・地理教育との連携—」

趣旨: 近年の気候システム研究の発展はめざましく、大規模計算機や各種の先端的研究によって、温暖化予測を含む気候の変動機構に関して、様々な知見が得られている。本セッションでは、これらの知見を気候形成論の統合的理解に援用することで、地理的な気候諸現象に対して、気候力学・海洋力学の視点から、これまでに提唱された各種の仮説を再検討する。大学教養課程や高校の地学・地理の基礎教育を含め、広く気候科学の最新知識を社会還元するコミュニティの形成を目指す端緒を開きたく、気象学会だけではなく、地理学会、海洋学会などの隣接諸学会でも活躍する研究者の積極的な参加を期待したい。

世話人: 植田宏昭 (筑波大生命環境), 立花義裕 (三重大生物資源), 松本淳 (首都大学東京), 三寺史夫 (北大低温研), 野沢徹 (岡山大自然科学)

3. 「気象予測・観測技術の再生可能エネルギー分野への応用」

趣旨: 近年、固定価格買取制度 (FIT) の導入以降、太陽光発電や風力発電システムなどの再生可能エネルギーの導入量には目覚ましいものがあります。一方、これらの発電出力は天候等により左右されるため、時間的、空間的にも大きく変動します。このため、再生可能エネルギーを含めた電力の安

定供給、電力の需給バランスの安定化には、太陽光や風力の予測、把握技術は不可欠な技術要素となりつつあります。また、気象の分野で技術開発された様々な予測・観測技術を用いることは、電力システムの運用コスト削減に貢献し、系統安定性へ大きく寄与できる可能性を秘めています。

このセッションでは、気象予測や気象観測技術が電力システム分野においてどのように利用、応用され有効に活用されていくのか、その議論の場にしたいと思います。研究機関から民間の気象会社、電力システム分野など様々な角度からのご発表、意見交換を期待致します。

世話人: 大竹秀明 (産業技術総合研究所太陽光発電研究センター), 嶋田進 (産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター), 宇田川佑介 (構造計画研究所/東京大学生産技術研究所エネルギー工学連携研究センター), 中島孝 (東海大学情報理工学部), 滝谷克幸 (日本気象協会), 早崎宣之 (伊藤忠テクノソリューションズ株式会社)

4. 「海大陸における大気・海洋・陸面マルチスケール相互作用研究—国際集中観測 YMC に向けて—」

趣旨: インド洋から太平洋にかけての暖水プール域に広がる「海大陸」はウォーカー循環、ハドレー循環の上昇流域にあたり、この地域の降水とそれに伴う加熱は、全球の気候システムを理解する上で重要な要素の 1 つである。海大陸では、沿岸部の海陸風、季節内周期で発現する MJO、両半球からの季節風、数年おきに発生する IOD 等の様々な時間スケールの現象が絡み合いながら降水活動に影響を与えている。同地域の独自性・重要性は国際的にも広く認識されており、海大陸の気象・気候システムを明らかにする試み“Years of the Maritime Continent (YMC)”が、2017-19 年に計画されている。本セッションでは、海大陸の大気・海洋・陸面における様々な現象とその相互作用研究の現状を整理すると共に、国際集中観測 YMC に向けた課題について議論する。また多角的な理解のため、比較対象となる他地域の研究も歓迎する。

世話人: 安永数明 (富山大学), 竹見哲也 (京都大学), 米山邦夫 (海洋研究開発機構), 鈴木賢士 (山口大

学), 増永浩彦 (名古屋大学)

5. 「気象情報の活用および気象講座・気象教育」

趣旨: 昨年の「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」、一昨年の「平成 26 年 8 月豪雨」など毎年のように大きな気象災害が発生している。しかしながら残念なことに住民が防災気象情報を正しく理解していないこと、首長からの適切な避難情報が発表されないこともあり、住民の適切な避難行動が執られていないケースもしばしば見受けられる。このため、最近では防災、減災を目的とした気象講座等の開催が多くなっている。また、気象庁では地方自治体に試験的ではあるが、防災目的で気象予報士を派遣する動きもでてきている。また、教育面では、学校教育においても自然を理解し防災面で重要性が高まっており、地学等の科目を見直すべきだとの論議もされるようになってきた。このようなことから、防災の研究結果の発表、防災啓発や防災教育などについての方向性の議論とともに、気象予報士の役割等の論議をしたいと考える。

世話人: 岩田修, 岡田登志恵, 鈴木浩文, 関谷不二夫, 榎野泰夫, 興語基宏, 水谷俊雄, 荒川知子 (日本気象予報士会)

6. 「気候変動が日本・東アジア域の降水現象の変化に及ぼす影響の理解に向けて」

趣旨: 地球温暖化に伴い、気温はほぼ全球で上昇するが降水は地域差のある複雑な変化をすると指摘されている。特に、日本・東アジア域は、ユーラシア大陸と太平洋との境に位置し、気象は、大陸と海洋、中緯度と熱帯の多方面からの影響を受けるため、気候変化に対する応答が複雑で敏感な可能性がある。近年の日本では、2014 年 2 月に南岸低気圧が甲府に前代未聞の大雪を、8 月には多雨域でない広島市の豪雨が甚大な被害をもたらした。このような現象は気候変化と係っているのだろうか。本セッションでは、気候変動に伴う大循環の

変化と日本・東アジア域での降水変化との関係についての理解を深めるために研究成果を持ち寄り議論する。気候モデル実験、最新の気象・衛星観測、水同位体比、全球雲解像モデル出力データ等を利用した研究、海洋、成層圏、北極圏、対流圏上部を含めた大循環の変化が東アジア域の降水に及ぼす影響のメカニズム研究などの投稿を歓迎する。

世話人: 高藪縁 (東京大学大気海洋研究所), 尾瀬智昭 (気象庁気象研究所), 中村尚 (東京大学先端科学技術研究センター)

7. 「あかつきが拓く惑星気象学」

趣旨: 日本の金星気象衛星「あかつき」が 2015 年の 12 月に金星周回軌道へ投入されました。いろいろな波長のカメラによる撮像を中心に、金星大気大循環の解明に向けた観測が行われつつあります。様々な高度での雲模様の変化や、それから推定される風速分布などから、大気スーパーローテーションの実態だけでなく、その維持メカニズムに深く関係していると考えられる、平均子午面循環や大気波動・大気擾乱に関する情報が得られるものと期待されます。同時に、金星以外の惑星に関しても、近年は活発な理論的・観測的研究が展開されつつあります。

本セッションでは、あかつきの初期成果を中心に、惑星大気全般に関する研究を広く募集し、最新の惑星大気科学の成果について議論したいと思います。惑星大気に従来から興味をお持ちの方は勿論、あかつきの成功を機に、惑星大気に関心を持たれた方の参加を歓迎します。

世話人: 高木征弘 (京都産業大学理学部), 今村剛 (JAXA 宇宙科学研究所), 高橋芳幸 (神戸大学大学院理学研究科), 中島健介 (九州大学大学院理学研究院), 松田佳久 (東京学芸大学自然科学系)

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外

国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の条件

を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

Ⅶ. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2016a@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。なお、会場によっては利用料負担をお願いする

場合があります。

申込期限：2016年7月5日（火）

- 記入事項：
1. 会の名称とテーマ
 2. 代表者の連絡先
 3. 希望日時・開催場所
 4. 予想参加人数
 5. 希望する支援内容

Ⅷ. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の幹事を予定しております。詳細につきましては大会ウ

ェブサイトに掲載する予定です。

Ⅸ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさと挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場



所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する

議論をご遠慮ください。

3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
 4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。
-